

教採勉強会⑦

ラスト

令和7年受検者のための「阪根塾」

6月4日、11日の2回は、**模擬授業**を確認します。今回はどの校種、教科に対応できるように、『なぜ〇〇を学習するのか』の意味と意義を授業します。

例：なぜ美術を学ぶのか、なぜ、算数が必要なのか……



阪根塾の詳細はQRコードから

民間も教員も同じ

＝ 評価ポイントを攻略する4つのコツ ＝

企業が評価する 3つのポイント

一緒に働きたいと
思える**人柄**か

入社や業務への
熱意があるか

入社後活躍できる
ポテンシャルがあるか



面接のコツ

面接独自のマナーを守る

面接官と会話する
意識を持つ

好印象な
話し方を意識する

企業研究と自己分析を
徹底する

長所(強み)を選ぶ際の優先順位 (DODAより)

①ヒューマンスキル

協調性/忍耐力/柔軟性/向上心/責任感 など

②テクニカルスキル

専門職経験年数/資格/ソフトウェアの使用歴 など

③ポータブルスキル

マネジメント力/課題解決力/提案力/リーダーシップ など

優先順位を間違わないこと ③から①という点

長所(強み)を聞かれたときの回答例

【OK例】

- ・提案力とその実行力が私の強みです。
ここから具体例へ

【NG例】

- ・明るい性格が自慢で、誰とでも仲良くなれます。
ちょっとした職場のムードメーカーです。
- ・忍耐力と体力には自信があります。毎日、残業が続いても苦になりません。

短所(弱み)を聞かれたときの回答例

【OK例】

・グローバルな領域でキャリアを積んでいきたいのですが、現時点での英語力は日常会話程度で、ビジネス英語についてはスキル不足だと実感しています。そのため、半年前からビジネス英語専門の英会話スクールに通い始めました。

【NG例】

- ・3人兄弟の末っ子で人に甘えがちなところがあります。
- ・すぐにカッとして冷静さを失うことがあります。前職では同僚との人間関係に苦労しました。

自分のことを客観視できているか
「長所を磨きながら、短所の克服もしようと努力
することができる人」と判断されます。

長所だけでなく短所も理解し、自身の課題と捉え
ている事実を伝えることで、「この人は短所を改
善しようと努力できる人であり、伸び代がある人」
「成長できる人」という評価に繋がるでしょう。

雰囲気にもマッチし、共に働くイメージが持てるか
ミスマッチを減らしたいという意図もあります。

自分のことを客観視できているか
「長所を磨きながら、短所の克服もしようと努力
することができる人」と判断されます。

長所だけでなく短所も理解し、自身の課題と捉え
ている事実を伝えることで、「この人は短所を改
善しようと努力できる人であり、伸び代がある人」
「成長できる人」という評価に繋がるでしょう。

雰囲気にもマッチし、共に働くイメージが持てるか
 mismatchesを減らしたいという意図もあります。

「結論→エピソード→どう活かすか」の順に

予想課題

- ① 学校に行きたくないという子どもの指導
- ② あなたの教科がきらいな子どもの指導
- ③ 保護者があなたの指導(宿題)に問題があるとクレームがありました。
どう説明しますか。

子どもたちの

伝言

学校現場を
みつめて

123

徳島市の肩峰ギャラリー1階
生光学園小5年 久米希典

これからの教育

これからの教育は、社会と教室をつなぐダイナミックな学びが進んでいくでしょう。そのため教室を離れて社会体験を行うことは重要なのですが、危険もあるし、時間もとれません。そうした中、新聞を活用する教育は、ピッタリの学びだといえるのです。

先日、鳴門教育大学で「日本NIE学会第16回鳴門大会」が開催され、講演やシンポジウムなどで、数多くの新聞活用の実践が発表されました。特に、大学、新聞社、学校現場の三者の立場から

話し合う記念トークは、参加者から好評を博しました。

そこでは、元校長から、小学校で認知症のお年寄りを招いた授業についての発表がありました。授業の様子が、毎日新聞の1面に掲載されたことで、子どもたちがこの活動に社会的な価値があったことに気づいたという事例を紹介されました。まさに新聞紙面を通して、教室と社会がつなが

社会と教室





室がつつながる

った瞬間です。
また、地方新聞社の編集局長からは、新聞記事は5W1Hを基本として、正確に分かりやすく書いているが、これに加えて、1W1worth（価値）を意識すること
を若手記者に指導していると話されました。このように、さまざまな事実に価値づけを行うことは、これからの社会において重要な要素になるのではないかと考えるのです。ある事実において、それにどんな価値があるのかを気づくことが大切だと思っております。

経済協力開発機構（O

ECD）は、2030年を見据えた教育を提起しています。そこでは、「新たな価値を創造する力」「対立やシレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」の三つの能力の育成を挙げています。こうした力を育むためにも、新聞を活用することは有効な手段だといえるでしょう。

新聞は、社会と人との「活字」を通してつないでいくという使命と役割があります。だからこそ、子ども時代には、新聞に触れてほしいのです。それは単なる事実の羅列だけではなく、価値を見いだすことができる教材だといえるからです。

（鳴門教育大学大学院教授 阪根健二さん）